2023年度業務実績報告書

提出日 2023年2月21日

１．職名・氏名　　講師・熊谷　正

２．学位　　文学修士　　英語学（神戸市外国語大学）

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　英語Ⅰ（１単位、必修）　英語Ⅱ-b（１単位、１年生初級選択）。

②　内容・ねらい

一般公立大学生の教養課程のターゲットに於いて求められる、『基礎的』な英語力の確立を図ることを中心課題としながらも、中身に面白味を持たせるためもあり、『普段の、しかし、学生にとって見知らぬ』英語圏の文化に目を向けさせるように、様々な知識及び自らの海外経験談を適宜与えて、毎回の講義を行っている。当然のことながら、「英語」と言う『言葉』や、『英語圏』の文化に目を向けさせると言うことは、必然的に「日本語」と「日本の文化」にも注意させることでもあるので、講義の中身は、そのような「自国の言語・文化との比較・検討」も、含むことになる。個々の学生に対する教育の姿勢としては、各学生の能力に合わせて、優秀な、そして（そうでなくとも）熱心な学生にはその能力をさらに伸ばすように、また一方では、あくまでも初級段階に甘んじている（いたい）学生にも一定の能力を得ることを可能にするように、いわば『手助けもしながら、おしりをたたく』授業を行っていると言って良いだろう。（ただ、以前と比較して、学生の多様化を考慮し、（無理を押して）『おしりをたたく』教育を行うことは、だんだんと控えめにして来ているのに、自分自身気づき、驚くことがある。これから、増々、学生の英語力ー特に「まともな」読解力---が少なくともかなりの長い期間に渡って、本学に於いて徐々に低下し続けていくことも考慮するならば、この傾向は強まるであろうと考えられるが、致し方無いものか、と考えている。実は、読解力が落ちていくのは、半分は、学生の家庭に於いて、いわゆる「言語教育」が行われず、その仕事が学校に丸投げされているからである。）ただ、どのレベルにいる学生も、努力をすれば、それなりに-----時には、非常な程度に------英語力が伸びる事がわかっている以上、これしか、手はない。それに、わざと、入学時に行われるプレースメントテストで悪い成績を取り、『楽に』レベルの低いクラスで教養課程の英語を済まそうとする学生も見受けられるので、注意が肝要である。特に、2016年度に於いては、近年の就職採用の際に、企業側---いや、もはや、「社会自体」---からの要求の高いことや、また大学院受験に学生の基礎的能力を計るため頻繁に必要とされるようになって来ている傾向を鑑み、ＴＯＥＩＣテストのテキストを、担当している全クラスに於いて用いて授業を行っている。自らの研究費によって購入した多量のＴＯＥＩＣの問題集類を学生に自由に（＝返却期限を設定せずに）貸し出すことによって、さらなる受験を奨励する試みを行っている。また、自らの研究室にまで足を運んでくれるような熱心なものには、より『実戦的』で懇切な「カウンセリング」を行ってもいる。私は未だに、本学に於いては、学生全員がＴＯＥＩＣを受験するという制度がないことは誠に残念で、ゆえに、私のこの取組みの重要性をこれ以上増すことはあっても、減じることはない、と考えている。ＴＯＥＩＣ受験に於いて多く求められているのは、実は、ある種の「パターン化された」英語の出題に習熟することであり、（＝ＴＯＥＩＣで高得点をあげるためには、基本的には中学校までの文法力でほぼ、十分である）自分の苦手とするパターンや単語から絶対に逃げることなく、積極的に自分の頭にインプットした英語を、ある一定の時間に於いて多量に、『実務的に』こなすことのできる『集中力』・『忍耐力』である。これが欠けているような学生をどうして、安心して社会に送り出すことができよう？近年に於いては、それどころか、「パターン」だけでなく、実際の実力を受験者に求めるよう、試験の中身が変化しつつある。ＴＯＥＩＣの勉強が、増々、「ホントウの英語の勉強」に近づきつつある。よく言われることであるが、いくらＴＯＥＩＣの悪口を言う人はあっても（＝「ＴＯＥＩＣができても英語なんか話せるようにはならない」と言うのは、我々が大学生の頃に、実は、ＴＯＥＦＬについてさんざん聞かされた御託の単なるくりかえしに過ぎない）実際にＴＯＥＩＣのテキストに用いられている英語は、どう見ても、非常に生き

生きとしたeveryday Englishであり、並みの英語教材に見られない特色を持ち、まさにこの事実によって、ＴＯＥＩＣの教科書を使用する事は、最初に述べた、学生の「基礎的な英語力の確立」のために、大変有益でもある。来年度も、私はこのまま続けるつもりである。（事務の方々の熱心なご協力にも、支えられていることを、ここで、付け加えておくべきであろう。）
ただ、テキストの使用や説明方法に関して、最初の内は、しっかりとリーディング教材を『講読』したり、「こまかく」教えるため、ゆっくりとした進度を授業のために選んだものであるが、現在は、今の英語教育の流れに乗り、多くの学生のニーズに見合った「多量の英語に触れさせて、帰納的に英語と言う言葉の『ルール』を習得させる」方法に移っている。
勿論、その『熱』が（兆ヶ一）収まるのなら、ＴＯＥＩＣに必ずしも拘るつもりは、全く、ない。ただ、現時点の本学に於いて、２年生の後半以降、学生が「就活」のため、多忙と言う言葉で形容できる以上の状態になる以上、我々は、１・２年の学生達に、なるべく（英語の能力を伸ばすことを助けることは言うまでも無く）そのヒマな時をうまく使って、資格試験の勉学を行わせるよう仕向け、『勉強のゴール』を設定してやることが、非常に大事だ、と個人的には考えている。
特に、本学のような、学生達が非常に教員に従順であり、言うことをよく聞いてくれる職場で勤務する以上、このfavorableな流れを利用しない手はない。他大学との取り組みの違いは、まさに、ここに根ざしている。
最後に、もう一つ---一般教育としての『英語』と言う、テクニックを教える、そして、上達させることをあくまでも目的とゴールとする講義に於いて、きちんとした『ゴールや目標』の提供もなく、ただ、学生に『ただ、テキストに沿って、英語を学んでいるという「雰囲気」だけを提供しようとしている講義』を行っている他の多くの英語担当教員の方々に、私は、強く、異を唱えるものである---たとえ、講義が難解になろうとも。他の一般教育科目と、「英語」と言う実技を伸ばすことをあくまでも優先する科目のあり方を混同してはならない。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫

　英語ばかりでなく、その和訳を頻繁に与え、日本語にも目を向けさせるようにしている。『英語で考える』と言う様なウソがまかり通っている中で、一種のアンチテーゼとして---,と言うよりは、どちらかと言うと（英語より学生が実は遥かに得意なはずの）日本語を助けとして、本来の英語の姿に迫り、そして、最終的には「ホントウのThink in English」にきちんとゴールできるよう、レールを引く、と言うのがいつも教えながら考えていることである。必ず予習してくるようにも言っている(復習は言うまでもない)。
2014年からは、担当5クラス全てでTOEICの教科書を教材として用いているが、いつも気をつけていることは、『純粋にＴＯＥＩＣ受験のためだけの授業にならない事』（＝それなら、専門学校で、やれば良い。）と、『経済学部の学生以外で、ビジネスや金融に詳しくない学生にもわかる、実のある講義をする事』である。
「生物資源学部や海洋生物資源学部の学生にbusiness Englishはどうかな？」と言う人もあるかもしれないが、この動きの速い世界情勢の中で、テキストや書籍なしに、『安上がり』で勉強できて、しかも、至る所に溢れている英語は、business Englishである。（例えば、通訳になるためには、いくら英語ができても、時事英語ができないとなれない、と言う冷酷な現実を考えてみる必要があるであろう。）
また、（これも、繰り返しになるかもしれないが）過去に学会などで海外へ行った際の個人的経験なども、積極的に話すようにしている。（決して、包括的には、時間の制限もあって、できないけれども。）海外に行ったことのない多くの学生や、ＬＥＡＰ　Programに応募したり、シンガポールへ行ったり、いずれ行こうと考えている学生の参考にしてもらうためである。学生は、予想以上に、面白がって聞いている。ただ、「面白がるツボ」が、かなり、一般人の予想と（おそらく）違うのに驚く。
長年、『同じような』中身の英語教育をしていると、マンネリになりがちなので、新しい、新鮮な英語にも多量に注意を払い、『現在の英語の流れ』に遅れないように、必死になっていると言うのが、『一番大きい工夫』か？（勿論、お気づきのように、「毎回の授業アンケート方式」により、学生側から、そのような努力を余儀なくされる、と言うのも、事実である。さらに、1年に1冊程度は最低、新刊の有名な英文法書をじっくり読み上げて、教育への糧としている。

(2)非常勤講師担当科目
①担当科目名（単位数）　開講学校名
②内容・ねらい
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
④本学における業務との関連性
(3)その他の教育活動

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①　学術論文（査読無し）熊谷　正　2022（＝昨年度の記録漏れ）「映画の鑑賞について」pp.80-81. in 『福井県大のリベラルアーツ』　創文堂印刷：福井.
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
①　その他の研究活動参加
②　その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

５．地域・社会貢献

(1)学外団体
①　国・地方公共団体等の委員会・審議会
②　国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加
③　兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①　公開講座・オープンカレッジの開講
②　社会人・高校生向けの講座
③　その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
福井市内の「テアトル・サンク」と言う映画館に『大変何度も通い』（＝現在も、継続中：上映される映画を 2015 年夏から、現時点まで全て観ることを自らに義務付けている）、観た映画に関してメールによって最低通年で 100 通程はネット上に感想・コメントを送信し、それを、伊井興業（＝テアトル・サンクの母体）の人達や、それ以外のかなりの一般の方々さえもが読まれている、と聞いている。

６．大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
微生物事件委員会委員.
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
学内の「ワールド・カフェ」に居て、教育等、時間を費やした。